

入試年度	2026	入試方式	一般（秋季）	課程	博士前期
研究科	発達教育学	専攻	心理学	領域（分野）	臨床心理学
出題のねらい					
「英文の読解力」と「ロジカルな文章の理解力」を確認する。					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
この文章の趣旨がどの程度読み取れているかを採点基準とした。 【解答例】 【1】 (1) <和訳>これらのモデルでは、ベースライン時の社会人口統計学的特性、社会参加、身体的健康、生活習慣要因、認知機能および精神的健康を調整した。 <説明>感謝の程度と死亡リスクとの関連を検討する場合、死亡リスクには、感謝以外にも多くの要因が関与する。たとえば、社会参加の程度、身体的健康、認知機能などは、死亡リスクに影響する可能性があるだけでなく、感謝の感じやすさとも関連している可能性がある。そのため、これらの要因を統計的に調整しなければ、感謝そのものが死亡リスクを低下させているのか、それとも他の要因との交絡によって、見かけ上そのような関連が生じているのかを判断することができない。 (2) <和訳>本研究は、感謝の感情を経験することが高齢者の長寿と関連していることを示す初の実証的証拠を提供するものである。これらの知見は、今後、より代表性の高い標本を用いた研究によって、再現される必要がある。 <説明>米国の高齢女性看護師 49,275 名を対象に、2016年時点の感謝の程度を測定し、その後2019年までの死亡を追跡した。その結果、ベースライン時点で感謝の程度が高い人ほど、全死亡リスクが低かった。特に、感謝得点が最も高い群は最も低い群に比べて、交絡因子を調整した後でも全死亡のハザード比が 0.91 であり、死亡リスクが相対的に低いことが示された。 【2】 Morey（2018）は、視空間スケッチパッドが他の認知システムや作業記憶の構成要素とは独立した特殊なシステムであるという仮定がもし正しいのであれば、(1)や(2)のようになるはずであると考えた。 (1) 脳損傷患者の中には、他の認知プロセスやシステムが本質的に損なわれていないが、視覚的または空間的短期記憶に選択的な障害を示すという患者が存在するはずである。 (2) 健康な個人における視覚的または空間的短期記憶は、二次課題（特に視覚的・空間的処理を必要としない課題）を同時に行なっても、大きな影響を受けないはずである。 しかし、実際のデータはそうなっていないかった。つまり、視覚的または空間的短期記憶に障害を持つ脳損傷患者の大多数は、様々な認知障害も併せ持っていたし、視覚的・空間的処理を必要としない認知的負荷の高い二次課題によって視覚的・空間的短期記憶が著しく損なわれたのである。					